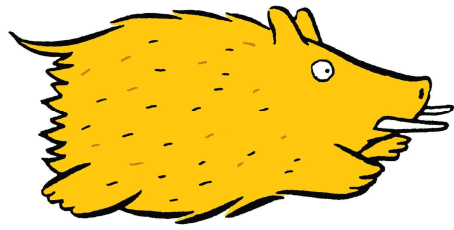




かっぱトマンソン隊じゃん



横浜市電って

by うさお



昭和35年当時の運転系統図

うさおの家の前には横浜駅から生麦に行くバスはあったが、市電は通ってなかった。昭和 47 年に市電が廃止されたのもぜんぜん記憶になかった。親父達に連れられて横浜港祭りを見に行った時とか、伊勢佐木町に買い物に行った時に見かけたくらいだ。大人になると親と一緒に出かけるのが億劫になり、また自分の遊びのテリトリーも鶴見(ここには市電が通っていなかった。国鉄があったからかも知れないね。)や横浜駅西口(家から直通の路線は無かった。)だったために、とんと市電には乗ったこともなかった。

家から入江町に向かって一の宮社に歩いていくと、入江川の河口付近に市電の停留場「入江橋」があった。この頃の人、なにしろ何かと言うとすぐ歩いて行っちゃう時代ですので、母の実家に行くのにも歩いていきました。まあ距離にして2km位でしたか。家からバスと市電を乗り継いでいくなら歩いちゃってなもんです。だから市電に乗った記憶があるのは、子供の頃に三溪園に海水浴に行った時くらいです。あの当時は三溪園の



三溪園界限



裏手がすぐ海で、狭いながらも遠浅の砂浜がありました。今は埋め立てられて何処が海だったのか見当も付きません。

で、何で市電なのかと言うとついこの間、横浜市電博物館(トラムポート)に行ってきました。だから紹介しちゃおうと言うお手軽かつ手抜きのトマソン隊です。

会社の仕事で横浜市営地下鉄の歴史を調べていたら、横浜から市電が消えた昭和47年に地下鉄が開通します。うさおがまだ新入社員のときです。

横浜も観光都市を傍標するなら函館や長崎のように市電を残しておけば良かったのに。うさおは見てはいませんが市電最後のお別れ走行の際に花電車が作られ、そこに地下鉄の張りぼてが飾られていたそうです。

当時、生麦と滝頭に市電の車庫がありました。¹その滝頭の車庫が横浜市電保存館：トラムポートです。

このあたりは美空ひばりの生家があったところで、山の上にはひばり御殿があったそうです。見渡したけれどそれらしいものは見当たらなかったなあ。市場の中にも加藤魚店も見当たらなかったよ、当たり前か。

入って直ぐ眼に入ってくるのは、市電の部品パーツです。うさおは鉄っちゃんではないので要りませんが、マニア垂涎のものばかりです。



さらに中に入ると代表的な何台かの市電が保存されています。先ほど言いましたように、あまり乗ったことが無いので、ノスタルジックな気持ちにも記憶にも触れることはありませんが、あの当時にドクガクがあれば市電を別な眼で見られたのにはと思います。(完全な鉄っちゃんになってましたね。)



電車の型式で何時のものだとか部下の鉄ちゃんは言いますが、車体の顔を見ても良く判りません。全種類の電車が揃っているらしく、12~3台ほどが展示してありました。



中に乗って見ると、緑色の硬いベンチシートが並んでいます。そうだ、この頃のバスや電車はやけに硬いシートだったのを思い出しました。

中々工夫が凝らしてあり、電車の運行にあわせて窓の外景色が動いていきます。CGなんですけど、ああっこんな街並みだったかなって思わせるように出来ています。

横浜の市電が華やかなりし頃(昭和9年くらいね!)には、キャビン・アテンダントさんが乗っていたようです。写真で見ると皆さんやけにグラマーな美人さんばかり。皆さんにこやかで当時の憧れの職業であったことが伺われます。



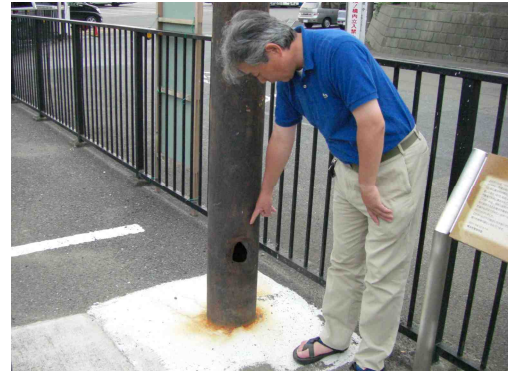
壁画に素朴な市電の絵がかかれています。誰が書いたのでしょうか。デッサンは狂っていますし色使いも変ですが、不思議と懐かしい雰囲気があります。しばしご堪能ください。

Cacco は味があるねえ！って言ってましたが。





保存館の出口には一本の電柱が立っています。昨年の7月まで子安にぽつんと立っていた市電の架線電柱で大東亜戦争のときに、米軍による機銃掃射があったときの跡が生々しく残っています。この情報も新聞に載ってから気付きました。もちろん現地に行っても何もありません。横浜市電が廃止されたときに、市電の線路と敷石は直接上にアスファルトを敷きこまれ隠蔽されました。ほんの少し前まではそれらの情報もあり、見に行くことも出来たのですが、横浜の開発・発展はすざましく、戦争の残骸なんて、跡形も残っていません。



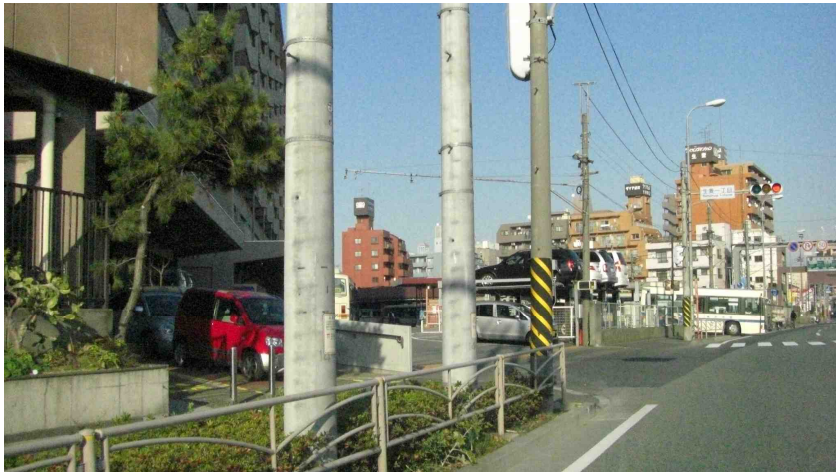
え～、鶴見に長いこと住んでいましたが、市電鶴見線のことはほとんど知りませんでした。子安から生麦の延長線上に 鶴見駅前までの間を第一京浜国道上に敷設されていました。この線は戦時下の軍部の命令で建設されたも

のだそうで、終戦後はGHQにより埋められてしまった幻の市電線です。その当時の鶴見駅と言うのは、今の鶴見警察署前のことです。道路下を掘ると今でも市電の鉄路が現れてくるかも。

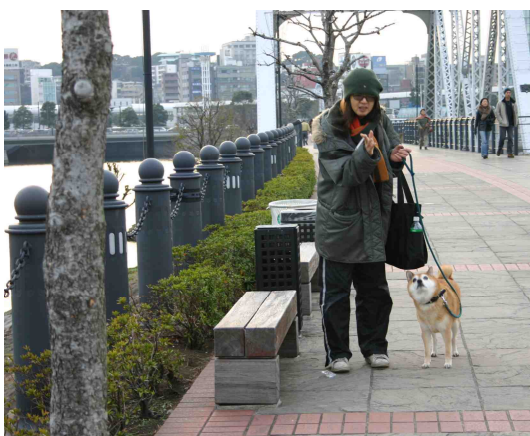




生麦の車庫近辺は、以前に取材したところのある処で、生麦事件の碑のまん前にあります。ですから麒麟・ピア・ビレッジは斜めはすかいにあります。第一京浜国道(国道15号)に沿ったこの辺りがそれ。今は横浜市営バスの営業所になっており、下駄履き住宅集合住宅が併設されているぞ。目の前の交通量がとても多いので、騒々しい割りに妙に寂れて取り残されている感じだ。



うさおの家の近くでは、入り江橋停留場跡があるぞ。跡たって何にも無いけど。





この辺りは母の生家があったところで、未だにこのような格式がありそうな家が残っている。網本さんの家だろうか。母の生家は商家ではあったがこれと似たような造りだった。



漁師さん達も、ご覧のようにほとんど遊漁船に鞍替えしてしまいました。



おじいちゃんが住んでいたという打越橋付近です。この辺りは昔も今もあまり変わりません。うさおが子供の頃の山手界限は、領事館の家族の方が、華僑の方が住んでいて治外法権ア～ンド

超高級住宅街でした。歳を経ても、お金持ちのステータスを求めて移り住む人たちがいますので、未だに高級住宅街です。六本木ヒルズのようなだね。





あまり遊びに行ったことはないけど、横浜では大口商店街と並んで物が安く、品揃えが良いとされたのが六角橋商店街です。戦後は闇市だったとも聞きますが、今でも結構賑わっているところです。うさおは技術士の試験を受けに六角橋にある神奈川大学に行ったので、この商店街は少し気が重い感じがします。試験は大嫌いです。



いぜん TICA さんが濱田省吾の下宿を見に行くんだと大手を振って歩いていたのはこの辺りです。



TICA さんとハマシヨウのツーショット



帝蚕倉庫の前にも通ってましたね。桜木町駅のところにも。昔、昔、横浜港の花火大会などはこの辺りを歩いて山下公園に行きました。親父たちとも行った記憶があります。うさおの記憶だからあやふやだけどね。

ああやっぱり市電には乗らないで、歩いて行ったんだあ。あの当時の人は節約家だったんだ。



今度本格的に市電の駅跡を探しに行きたいと思っています。うさおは。。

(ピンポンのような口調だな…)

やはり昔の視点と同じ場所で撮らなくちゃなあ。



本庁通り、今の横濱資料館前を通るオレンジ色の市電。

1 このほかにも・浅間町車庫、麦田車庫があった。浅間町車庫は三ツ沢公園の下のほうで、麦田車庫は本牧の方である。地名だけ聞くとそれだけで昭和の匂いがある。

参考資料: 長谷川弘和
「横浜市電が走った街 今昔」



市電コーナー



ミニ鉄道コーナー



横浜 市電保存館

07.-9.24 084586

大人 ¥100-

当日限り有効